

中枢性耳鳴りを下丘ノシセプチン系で解明する

課題番号：17500228

平成17年度～平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（C））
研究成果報告書

平成20年6月

研究代表者 工藤 基

（滋賀医科大学医学部教授）

滋賀医科大学附属図書館



2007015780

<はしがき>

「耳鳴り」は蝸牛レベルの末梢性聴覚障害と考えられてきたが、最近ではその多くが脳の機能不全、とりわけ脳幹レベルの抑制系神経回路の障害である可能性が大きくなってきた。これらの疾患には有効な治療法がない現状であるが患者の訴えは深刻である。にもかかわらず心因性的のものとして放置されるケースも多くQOL改善の面からも社会的要請は強い。そのメカニズムを解明する目的で本研究は行われた。その結果、いくつかの新知見を得て研究の前進をみる事ができた。同時に聴覚路の持つ独特の複雑さも浮き彫りとなったので今後とも継続してこの課題に取り組んでゆきたい。本研究のために貴重な国費を使わせていただいたことに対し深く感謝の意を表する。

研究組織

研究代表者： 工藤 基 (滋賀医科大学 医学部 教授)
研究分担者： 相見 良成 (滋賀医科大学 医学部 准教授)
研究分担者： 瀧 公介 (滋賀医科大学 医学部 助教)
研究分担者： 力丸 裕 (同志社大学 工学部 教授)

交付決定額 (配分額)

(金額単位：千円)

	直接経費	間接経費	合計
平成17年度	2,200	0	2,200
平成18年度	600	0	600
平成19年度	600	180	780
総計	3,400	180	3,580

研究発表

ア. 雑誌論文 (著者名, 論文標題, 雑誌名, 査読の有無, 巻, 発表年, 最初と最後の頁)

1. Tsujinaka K, Nakamura T, Maegawa H, Fujimiya M, Nishio Y, Kudo M, Kashiwagi A, Diet high in lipid hydroperoxide by vitamin E deficiency induces insulin resistance and impaired insulin secretion in normal rats. Diabet. Res. Clin. Pract., 査読有, 67, 2005, 99-109.
2. Matsuo A, Bellier JP, Hisano T, Aimi Y, Yasuhara O, Tooyama I, Saito N, Kimura H, Rat choline acetyltransferase of the peripheral type differs from that of the common type in intracellular translocation. Neurochem. International, 査読有, 46, 2005, 423-433.
3. Yamada H, Aimi Y, Nagatsu I, Taki K, Kudo M, Arai R. Immunohistochemical detection of L-DOPA-derived dopamine within serotonergic fibers in the striatum and the substantia nigra pars reticulata in parkinsonian model rats. Neurosci. Res., 査読有, 59, 2007, 1-7.

4. Yasuhara O, Aimi Y, Shibano A, Kimura H, Primary sensory neurons containing choline acetyltransferase of the peripheral type in the rat trigeminal ganglion and their relation to neuropeptides-, calbindin- and nitric oxide synthase-containing cells. Brain Res., 査読有, 1141, 2007, 92-98.

5. Yasuhara O, Matsuo A, Bellier JP, Aimi Y. Demonstration of choline acetyltransferase of a peripheral type in the rat heart. J. Histochem. Cytochem., 査読有, 55, 2007, 287-299.

イ. 学会発表 (発表者名、発表標題、学会等名、発表年月日、発表場所)

1. 瀧 公介、黒川 清、工藤 基、中脳聴覚路におけるP2X(AT0受容体)の分布、日本音響学会聴覚研究会、2006年5月20日、京都。

2. 瀧 公介、工藤 基、ラット聴覚脳幹でのP2X発現パターン、日本音響学会聴覚研究会、2007年5月19日、京都。

3. 瀧 公介、工藤 基、力丸 裕、音弁別実験データの解釈モデル：系列刺激に対する反応を再考する、日本音響学会聴覚研究会、2008年5月24日、京都。

ウ. 図書 (著者名、出版者名、書名、発行年、総ページ数)

1. 工藤 基、西村書店、マーティン神経解剖学テキストとアトラス 第8章 聴覚系、2007年、13頁。